



259号 発行所 / 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者 / 病院長 吉野 茂文 印刷 / ㈱アートネクスト

よりパワーアップした循環器内科にご期待ください



多職種のスタッフと連携して頑張ります！

令和6年度より、当センター循環器内科が医師メンバー増員、新たな船出の時間を迎えましたので、ご報告させていただきます。
4月より、濱田頼臣医師が着任し、6月より原田耕志医師(医長)、竹中仁医師が着任しました。3月で定年退官され、4月より顧問就任の大谷望医師と

平成12年より当科勤務の早野智子(医長)の計5名で、循環器内科診療、精査・手術処置等の内容を拡大中です。
具体的に申し上げますと、心臓カテーテル検査およびインターベンション治療のシステム再構築と、植え込み型ルーブ心電計での不整脈遠隔モニタリング(原因不明の失神症例において、危険な不整脈が潜んでいないか、厚さ3mm程度・長さ5cm程度の心電計を皮下に30分以内の処置で植え込み、1年間ほどインターネット回線で定期観察・精査する検査方法です)、さらに高齢体重減少後の患者さんにメリットを持つとされるリードレスペースメーカー植え込み手術など、また、心臓リハビリテーション治療も今後徐々に拡大・工夫を加えていくと、日々、勇往邁進して

心臓・循環器分野の精査・治療にはいくつもの専門精密機器が必要です。当センターが現在の長府外浦の地に新病院建築・移転してからです。10年以上が経過しました。そこで、機器の新規入れ替え・更新も、急ピッチで現在進行中です。心臓カテーテル検査・インターベンション治療に必須のアンギオ装置は、今年末にも新規入れ替えの見通しとなっております。
医師のメンバー5名は、みなそれぞれ下関に縁があり、下関市の医療に携わりたいと喜んで、この度のチーム結成となりました。センター内各部署のスタッフと連携し、より一層、患者さん方のお役に立てる医療のご提供を目指して精進してまいります。どうぞ皆様、よろしくお願いたします。

Staff profiles: 竹中 仁 (循環器内科), 濱田 頼臣 (循環器内科), 原田 耕志 (循環器内科医長), 大谷 望 (循環器内科顧問), 早野 智子 (循環器内科医長).

循環器内科のご紹介

外来診療担当医一覧表

2024年7月1日

Table with columns: グループ名, 診療科名, 月, 火, 水, 木, 金, 特殊外来 ※要予約. Rows include various medical departments like 総合診療, 循環器内科, がん消化器・肝臓病, etc.

赤字は今月の変更分です。

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター
TEL(083)241-1199 FAX(083)241-1301
★代表 ★地域医療連携室(医療関係者専用) ★透析センター
https://kanmon.hosp.go.jp/

はじめて / 新任医師紹介

下関出身で、初期研修は関門医療センターで行いました。再び関門医療センターで勤務できることに喜びを感じています。下関の泌尿器科医療に貢献できるように、日々精進してまいります。



泌尿器科
さかきばら あゆみ
榎原 亜有美



「オール下関」で立ち向かうために

令和6年6月13日海峽メッセ下関にて新興感染症の発生を想定した机上訓練に参加しました。新興感染症とは、これまで知られていなかった新たな感染症のうち、公衆衛生上大きな問題となる感染症のことと、近年では新型コロナウイルス感染症やエボラ出血熱などが挙げられます。新型コロナウイルス感染症による社会全体への影響は甚大で、皆さまの記憶にも新しいかと思えます。このような新興感染症の発生に備えるため、一昨年より下関市では保健所・医師会・入院医療機関・クリニックなどが一堂に会し、「オール下関」をテーマに机上訓練を開催し、今回で3回目を迎えました。今回の訓練には、市内59の病院や高齢者施設から医師、看護師、薬剤師、検査士も多く、大変有意義な時間となりました。新興感染症はいつどこで発生するかわかりません。そんな時、「オール下関」で立ち向かえるよう今後にも訓練を重ね備えていきたいと思



感染管理認定看護師
みむら ゆか
三村 由佳

新興感染症を想定した机上訓練に参加して

【吉岐での1か月を終えて】

私は2年最初の外病院研修に吉岐病院を選びました。理由はたくさんありますが第一に離島がどういふものか見てみたかったからです。研修内容は院内で整形外科を回らせていただき、三島診療所、光武先生との訪問診療、退院前の家屋調査をさせていただきました。

まず外来で最初に感じたことは圧倒的に高齢者が多く、骨粗鬆症・変形性関節症など慢性的な疾患がほとんどであり、山口県と似たものを感じました。したがって鎮痛目的に注射を行う人も多く、私自身も指導を頂きながら膝の関節内注射を十数症例させていただきましたが、なかなか難しくほとんどが失敗に終わりました。また薬剤選択、特に骨粗鬆症の治療では作用機序などの違いはありますがかなり種類が多く、その人にあった治療が必要だと学び、適切な知識と患者さんとの十分なコミュニケーションが必要だと感じました。また、保存的治療を行う際に今後の方針を考える機会にもつながりました。中には治療が困難なため福岡の病院に紹介した方など、離島で治療を完了できない難しさを感

じました。その他にも多くの症例を経験できました。手術では骨折、TKA症例が多かったです。また全症例で神経ブロックを行っており、エコー下でのブロックを多く見学できたので、エコー下で神経を見つける訓練が出来ました。吉岐での研修で感じたことは、離島のため



吉岐病院

移動手段が限られており、資源や人員に制限があるため、必要な治療が迅速に行えないことがある。高齢者が多いため病院に通えない人や身近な家族がいらない人などにも治療が施されるように地域と密接に関わりを持ち、多職種との連携が大事である。そして高齢者が多い分、整形外科疾患では骨粗鬆症による骨折や変形性関節症などの慢性疾患に対して早期治療介入が重要であり、そのためには定期的な外来受診や健診でのフォローを行い、適切な治療を行うために自身の経験や知識を広げることが必要だと思いました。また吉岐だけでなく高齢者が多い地域は同じことが望まれるため、山口でも同様のことが必要となってくると改めて感じました。



研修医
なかむら ももこ
中村 桃子

このような機会をくださりありがとうございます。1か月でした。

1か月で、院内で関わった皆様とても優しく、多くのことを教えてくださりとても楽しい1か月でした。



画論コンテスト

放射線科(C T部門)優秀賞受賞

画論 31st The Best Image



この度、令和5年12月17日にキヤノンメディカルシステムズ株式会社の主催による「画論® 31st The Best Image」のコンテストが行われました。コンテスト内容は「CT」「MRI」「エコー」の各検査部門について検査技術及び画像処理技術の高さを競うものであり、全国の各病院から今回は500を超える応募がありました。当センターもCT装置の「1160列（心血管）部門」について応募し、「LCXの慢性完全閉塞病変」というテーマで上位4施設に選ばれ、最終審査において優秀賞を受賞することができました。CT部門での受賞は中四国内では当センターのみの受賞となっております非常に栄誉なことであると思

思います。昨今の医療技術は年々向上しており、毎年、新技術が発表されています。最近ではAIを画像処理に応用した技術が出てきており、医療業界を賑わせています。CT装置の性能でいえば、従来では一度に撮影可能な範囲が大きいほど高性能（例えば320列CTなど）【当センターは80列CT】であると言えましたが、最近ではAIによる画像処理や、Dual Energy撮影処理等の有無などが重要になってきています。また、機器の設定が複雑化してきており、取扱いが困難になってきています。そのため、各施設での基礎的実験及び検討を行い、装置のクセを正確に把握したうえでチューニングを行い、適切な運用をすることが重要で、診療放射線技師の大きな役割でもあります。今回のコンテストに応募した内容は従来からある古い技術と新しい技術をハイブリッドさせたものになります。



80列マルチスライスCT

画論® 31st The Best Imageのホームページへは左記の2次元コードよりアクセスください。



「施設における検査のレベル」とは、「装置の性能」×「検査を行う技師の技量」で表されると考えています。当センターのCT装置は決して「従来の意味」での高性能なCT装置とは言えませんが、その差を補うために、診療放射線技師の撮影技術を向上させる環境・仕組みづくりを行っており、CT検査レベルの向上に努めています。また、CT検査においての被ばくについては、被ばくを極力抑えて検査を行って



放射線科
まつした あつひこ
松下 敦彦

寄贈の御礼 ~ タオルキャップ ~

令和6年6月に、手作りのタオルキャップの寄贈がありました。頭部外傷の患者さんや化学療法をされる患者さんに、大変好評いただいております。お気持ちに感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。

